

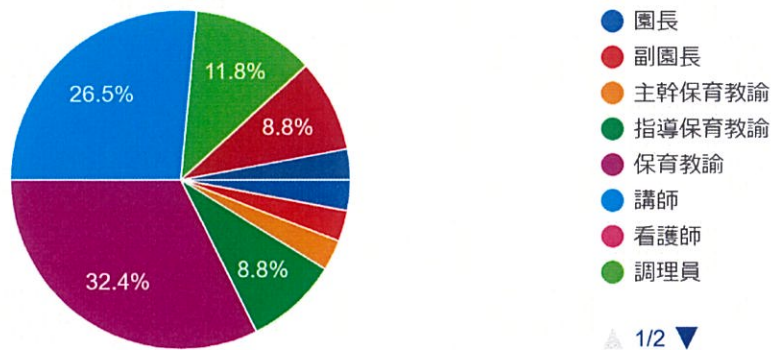
令和5年度 自己評価報告書（日高ななつ星）

標記について、次のとおり取りまとめましたので報告いたします。

なお、自己評価の結果をもとにして園の強み弱みを分析しながら改善を行い、保育の質の向上に努めて参ります

回答者の職名

34件の回答

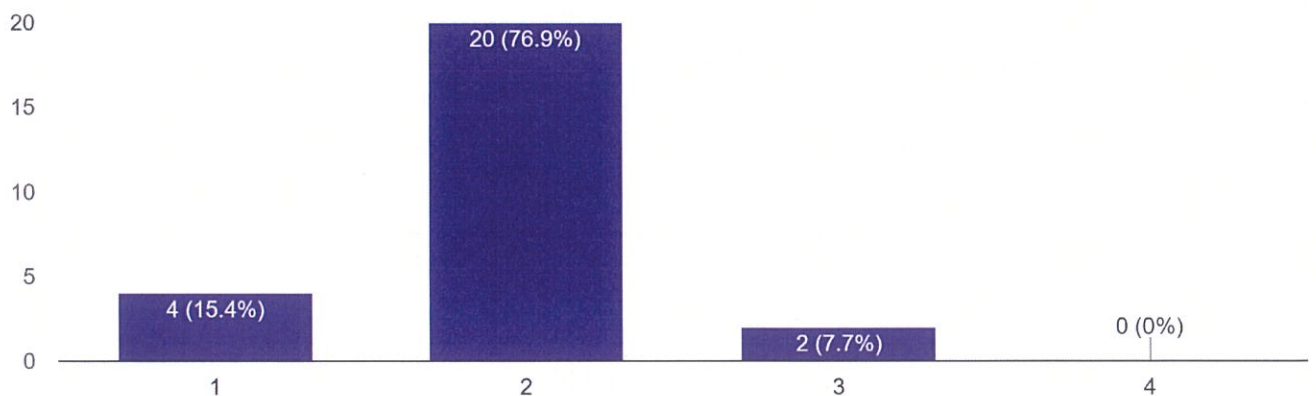


1 【教育内容】子どものみとりと理解

・子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう努めている。

【I. 教育内容】1 子どものみとりと理解 ・子...らない思いやサインを受け止めるよう努めている。

26件の回答



【上記取り組みの成果】

- ・まだ言葉を話せない子の思いを表情やしぐさから読み取るよう、意識してかかわることができた。
- ・一人ひとりの個性に合った援助を考えながら丁寧に関わるよう努めた。
- ・普段の様子の変化や表情などを見ながら一人ひとり対応し、職員間で協力してかかわってきた。
- ・子どもの気持ちに寄り添いながら、受け止めることで、安心して自分の思いを話してくれる姿が見られた。
- ・子どもたちと会話の中で、思いを汲み取るよう努力し、受け止めることができた
- ・サークルタイムを設け、それぞれの意見を聞きながらやりたいことを尊重し、考えを認め自信持って発表や思いを伝えることができています。
- ・子ども達の話したいことを子ども1人ひとりのペースで聞き、先生に話をして良かったと思えるような対応を行うことができた。
- ・受けとめるよう努めたが、完璧までとは言えないように思う。
- ・言葉で自分の気持ちを伝えられない子には動きや指差しなどで気持ちを汲み取りやり取りを行うことができた。
- ・子ども一人ひとりの思いを受け止めるように努める事ができた。
- ・言い方も悪いことも話を聞くことで子どもも安心し、そこから信頼感も生まれてくるため、その都度寄り添い話を聞いている。また、言葉でうまく伝えることが難しい子は表情に出ることが多いため、ちょっとした変化にも気づけるよう努力している。
- ・子ども達が話しかけてくれるようになった
- ・主体性についての研修で学んだ事からも、改めて子どもが今何を考えているか等を意識して接するようにしていました。
- ・言葉がまだ出ていない児には、仕草などから察して気持ちを言葉にしていくようにした。
- ・子どもの目線に立ち話をするように日頃から気を付けて過ごしている。落ち着きのない子や支援の必要な子などの突発的な行動にも対応する事ができている。
- ・気持ちを言葉にする事が難しい子も多い為、毎日体調等も見ながら保育し、子ども達との対話を大切にしている。その為、子ども達も安心して話をしてくれたり、困った事があると自分から伝えてくれるようになった。
- ・自分の思いをなかなか表現できない子もいたが、個別に対応し、思いを聞いたりしてその子のいいところを周りにも伝えていくことで自信に繋がり、人前でも話すことができるようになった。
- ・信頼関係を築く事で、言葉にならない思いやサインを受け止める事ができた。
- ・努力はするが、うまく聞きとれず聞き返す事が何度もあった。反省
- ・困っている様子が見られた際には個別に声を掛けて、本人が話しやすい環境を作ることができた。また気持ちを言葉にすることが難しい子については、思いを受け止め、気持ちを言葉にしてあげることによって子どもも落ち着いて過ごす姿が見られた。
- ・子どもたちの思いや言葉に気づくことができ、子ども自身個性を理解することに繋げることが出来た。
- ・個々の表情や行動、言葉等、常日頃から気にかけて関わる事で、個人差はあるが信頼関係を構築できた。
- ・言葉にできない子が多く、子ども達からのサインを見逃さないように常に気に掛けるよう努めた。が、保育に入らない時（給食準備や片付け時）に、気付いても対応出来ない事が多くあった。
- ・言葉を上手く話すことが出来ない低年齢児の行動や表情から、その子の思いを読み取るよう努めた。
- ・まだ上手に言葉で伝えられない子もいる為、こちらから聞いてみたり、普段の行動から予測して、

出来る限り寄り添える様にした。

【上記取組の今後の課題】

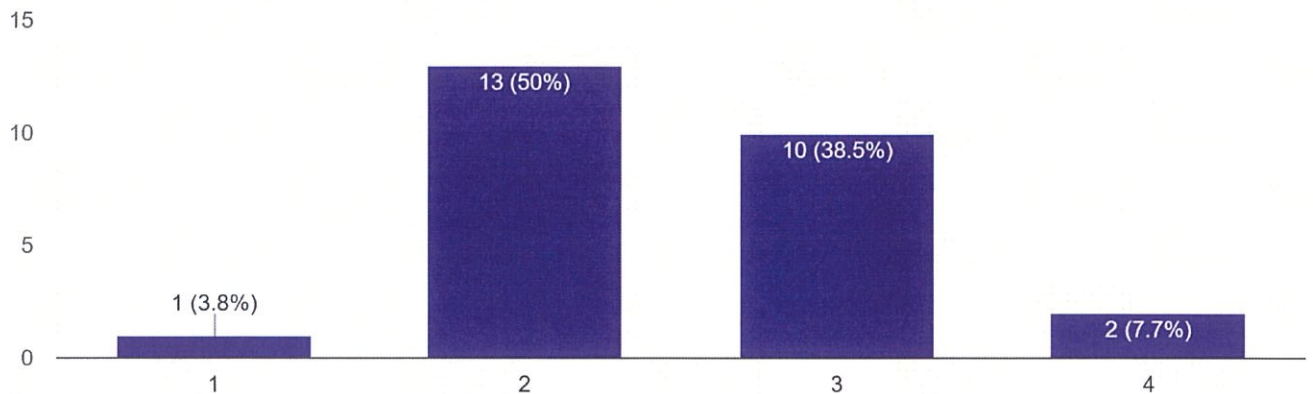
- ・子どもの思いを受け止めた後、保育者同士でしっかり共有していく。
職員間でもかかわり方について共通理解し、同じように対応できるよう職員同士の連携をはかっていく。
- ・自分の思いをなかなか素直に伝えられない子が増えてきているので全体への把握が難しい。共通理解する話し合いの場を設けたい。
- ・今後も子どもの気持ちや思いに寄り添い対応していく。
- ・子どもの表情を観察し、声をかけるようにする
- ・子ども達の促しや更に自信につながる声かけを心がけて過ごしていく。
- ・各クラス全員と毎日話をすることができていなかった為できるだけ毎日話ができるよう時間を作りコミュニケーションを取る。
- ・認定こども園は事務業務量が非常に多く、子ども達と関わる時間を捻出しづらくなったことが課題。
- ・言葉がまだはっきりしない時期だからこそ、一人ひとりの子どもの思いをくみとることができるよう努めていきたい。
- ・職員の人数配置等で1人1人と余裕を持った関わりをとることが出来なかった時もあった。
- ・子ども自身が自分の思いを伝えられるように、年齢や一人ひとりに合わせた関わりをできるようにしていく。
- ・月齢が高くなるほど子ども達同士での決め事や解決が多くなる中ではあるが、お互いの意見が尊重できるよう職員も輪の中に入る必要がある。
- ・どんどん声がけすること
- ・職員間で共通認識を持ち、継続していく。
- ・子ども達ときちんと向き合うように心がけているが、対応できない時には言葉をかけて説明する。
- ・職員が手薄な際には子ども達の訴え全てに応える事が難しい場面がある為、自分だけで解決しようとせず他の職員に声をかけ「頼る」ようにする。
- ・一人ひとりの思いに寄り添い、安心して自分の思いを表現できるような雰囲気を作っていく。
- ・信頼関係を深めていき、安心して過ごせるようにしていく。
- ・園児と事務等の業務で接する機会が取れなく、取り組めなかった。
- ・普段からその子の様子を良く見ていたり、言葉に気をつけていきたい。
- ・個別で対応することが難しい場面での対応の仕方を考えていく。
- ・細かい部分まで気づけていない時もあるので、他の保育者と話し合いながら子どもたちからのサインに気付けるよう、引き続き努めていきたい。
- ・職員間でも情報共有し、子ども達のより良い育ちに繋げていけるよう努める。
- ・気付いたが自分に対応出来ない時は、出来るだけ近くの職員に声を掛け対応できるようにしたい。
- ・それも出来ない時は、後からでも出来るだけ早く対応、ケアできるように心掛けていきたい。
- ・今後もよく観察し、子どもの思いに寄り添い安心した園生活を送れるよう関わっていく。
- ・自分に余裕に持てる様に、気を付ける。

2 【教育内容】 指導とのかかわり

- ・子どもの食生活の充実を図るとともに、食事を介して健全育成を促す「食育」の推進に取り組んでいる

【I. 教育内容】 2 教育環境の構成 ・身近な...会とかかわることを通して学ぶ環境を整えている。

26 件の回答



【上記取組の成果】

- ・身近な自然物を使った制作をしたり、散歩を通して季節の変わり目を感じられるような環境構成をすることができた。
- ・警察署に行ってパトロールカーの見学をさせていただいたり、身近な職業への関心を高める活動ができた。
- ・季節感を大切に子ども達の興味、関心の姿を把握しながら取り組んできた。
- ・自然の中で、虫や草花等に興味を持っていた為、図鑑等を配置し自分で調べられる環境を整えた。
- ・それぞれの季節を感じられる環境を設定して制作をしたり、表現することができた。
- ・前半は、一人で作り上げる子が多かったが、少しずつ後半から友だちを誘って大きなものを作り上げる姿が多く見られるようになってきている。
- ・季節によって咲く花や葉を子ども達に見せ、季節を感じさせるような活動をあまり行うことができていなかった。また、環境整備があまりできておらず細かい所まで掃除が行き届いていなかった。
- ・散歩などで地域の方と関わったり、季節の植物や虫などと触れ合う機会が少し増えてきたように思う。
- ・身近にある自然や環境に触れることが出来るよう、散歩に出かけたり、身体全体を使って楽しむことが出来るよう取り組んだ。
- ・戸外遊びやお散歩等で季節を感じ、その時期にあった植物や生き物と触れ合い自然を感じる機会をとることが出来た。
- ・子どもたちの遊びが発展できるように環境を変え、整えていく事が難しかったように思う。
- ・地域交流も兼ねて、様々な形で園外活動等を行うことができた。
- ・戸外へ積極的に出掛け、自然と地域の方々との挨拶や簡単なお話等、安全に留意しながら園舎外で出来る経験に繋がる活動を設定するようにした。
- ・戸外遊びやその季節ならではの遊びを取り入れるようにした。
- ・仕事に復帰してから怪我が続き、園庭で遊ぶ機会がほとんどなかった。

- ・興味のある子は自然物を使った製作を楽しんだが、他の園児の興味関心を引き出す事が出来なかった。
- ・野菜を育て、食べて終わりではなく、例えばさつまいものツルを使ってリースを作り、自分たちで拾ったどんぐりや松ぼっくりで飾り付けをする等、自然物を使った表現を楽しめるようにした。
- ・戸外遊びや散歩を通して自然や季節の変化に興味関心をもつことができた。
- ・園内環境については、視察研修や園内研修の積み重ねにより工夫を凝らして整備した結果、子ども達が遊びに没頭し、様々な気づき学びを得ている様子であった。また、その様子を保育者が良く観察し、記録、公開が出来ている。
- ・散歩や絵本を通して心掛けた。
- ・季節を感じられるような遊びの環境を整えることができた。また、自然物や季節を取り入れた製作等も行うことができた。
- ・お散歩や、プール遊びなど季節に合った自然との関わりをもてる活動を考え、行うことが出来た。
- ・興味関心が高まるよう環境を整える事を心掛けた。
- ・個人的には遊びの中で話したりはしたが、全体を通しての活動等には参加出来なかった。
- ・野菜の栽培を通して生長していく様子を知れたり、園庭遊びで小さな生き物に触れることで優しい気持ちを持てたりと、自然の中で育まれるものがあつた。
- ・お散歩で季節の移ろいを感じた。

【上記取組の今後の課題】

- ・身近な社会とかかわる機会を設けられなかったと感じるため、散歩コースを検討しつつ遊びの中で社会とのつながりを持てるよう工夫していく。
- ・学年や子どもたちの興味関心に合った活動を考えながら、地域資源を活用していく。
- ・学年ごとの取り組みだとばらつきがみられるので異年齢交流を通して環境を整えていきたい。
- ・今後も子どもが気づき、学べる環境を常に整えていく。
- ・毎日の活動に関して目標がなく過ごしている子どもたちが多い。
- ・3 学期、進級に向けて自分の身の回りのことや活動に取り組む意識を尊重しつつ、声をかけていく。
- ・自然を感じさせるような活動を増やし、日々成長に繋がる遊びを行う。
- ・コロナは5 類に移行したが、社会ではまだ抵抗感があることが感じられる。コロナ前と同じ程度に社会との関わりを取り戻すにはもう少し時間が必要かと思う。
- ・上記のような活動を継続して行っていきたい。また、マンネリ化しないよう工夫し、対応していきたい。
- ・どうしても同じような活動内容になってしまいがちな為、自然に触れ合える遊びを見つけさらに増やしていきたい。
- ・子どもの興味関心や学ぶ環境を日々考えながら環境を変えて、整えていく。
- ・社会を知る上で、地域との関わりを密にしていきたい。
- ・草花を勉強する
- ・日々の周囲の安全点検を引き続き行っていく。慣れが出ないようにする。
- ・未満児にも社会と関わりを持てるような活動ができるのか考えて、実践してみる。
- ・安全を1 番に考えながら自然物を使った遊びをもっと増やしていきたい。松ぼっくりやメタセコイヤなどを使った遊びをもっと展開させる事ができるように、図鑑などを配置し興味を広げていく。